

職業奉仕月間、米山月間によせて

国際ロータリー第2660地区
ガバナー

横山 守雄



私はいろいろなロータリー活動の中で、職業奉仕がロータリアンにとっては最も重要な分野であると考えております。ロータリアンは「他への思いやりの心」そして「他への助け合いの心」をロータリーで学び、自分の職業を通じて社会の人々のお役に立つ、そしてその崇高な奉仕の理念を世の中に広めて行くという責務を担っているからです。最近、RIやR財団が人道奉仕活動やプロジェクトに活動の重点を置いていることもあり、ロータリーでの職業奉仕の重要性が薄れがちです。一方、近年ロータリアンが関係する企業や組織でも不祥事が多発しておりますが、ロータリーの職業奉仕の理念やモットーが本当に理解されておれば、不祥事には至らなかったのではと残念に思われます。

私は本年度当地区の重点活動項目の第一点として「職業倫理の向上と、四つのテストの実践」を掲げさせていただきました。これは大変陳腐な活動項目かもしれませんが、ロータリアンが高い倫理基準を保ち、そして更なる向上へ日々努力することが、ロータリーの発展にとって最も大事なことと考えたからです。本年度のG月信には、「ロータリーの真髄—職業奉仕を語る」というテーマのもと、1年間に互るシリーズで毎月号に職業奉仕

の啓蒙に秀でた諸兄に執筆をお願いしております。是非ご一読下さいますようお願い申し上げます。

さて、10月は「米山月間」でもあります。米山奨学事業は日本独自のロータリー活動として始まり、半世紀以上の歴史を持つ大変重要な活動分野です。米山奨学金受給者の中には外国の政府機関、実業界や教育界で活躍されている方、また国際親善と友好に大いに貢献されている方が多数いらっしゃいます。米山奨学事業がこれまで果たしてきた国際的な役割は計り知れないものがありますし、これからもその重要性は益々増して行くものと思います。

一方米山奨学事業は、日本全体の会員数と拠出奨学金の減少、会員の高齢化による奨学生カウンセラーの問題、奨学生の選出方法、奨学生帰国後の対応問題など、ロータリアン、そして奨学生、双方で解決して行かなければならない様々な課題があることも事実です。有意義な本事業の更なる発展のために、日本のロータリー全体で米山奨学制度の改善を図って行く努力が必要です。ロータリアンの皆様の本事業に対するよきご理解とご協力をお願い致します。